



# PISA

## IN FOCUS

# 7



education policy education policy education policy education policy education policy education policy education policy

## 私立学校:得をするのは誰?

- 私立学校に通っている生徒は、公立学校に通っている生徒よりもPISA調査で有意に良い成績をあげている。しかし、私立学校の者と同等の社会経済的背景にある公立学校の生徒は、同じように良い成績をあげている。
- 私立学校の割合が大きい国ほど、PISA調査の成績が良くなるわけではない。
- 子どものために最も良い教育機会を探している親は、私立学校が提供するより良い教育リソースを確保するために、たとえ、同じような教育リソースが恵まれた生徒集団のために公立学校でも利用できるとしても、喜んでより多くのお金を私立学校に支払っている。

子どもの教育のある時期に、多くの親は私立学校に子どもを入学させることがその費用に値するのかどうかを考えてきた。親にとって、私立学校は、公立学校では得られない特殊な教育を提供してくれるのかもしれない。また、もし私立学校が公立学校よりも成績の良い生徒や優秀な教師を引き付けているのであれば、親も私立学校が子どもにとって最良の教育を保証してくれると考えるであろう。

カリキュラムの設計や資源の配分に自律性があり、柔軟性を持つがゆえに、私立学校は学校制度の中で革新性を呼び覚ますものであるという考えに基づいて、私立学校を助成している学校制度も存在する。この革新性ゆえに私立学校は生徒を獲得しているというのであれば、公立学校は競争力を確保するために教育への取り組み方を考え直す必要があるのかもしれない。

私立の学校教育を非難する人は、私立学校が生徒を分離し、教育機会の不平等を助長しており、特に親に授業料を請求する場合はそうである、と論じている。非難する人に言わせれば、より豊富な財源を持つがゆえに、私立学校は最も良い生徒と教師を引き付け、募集することができるのである。

### 私立学校の「優位」は…

16のOECD加盟国と10のOECD非加盟国において、標準的な私立学校の生徒は、標準的な公立学校の生徒よりも成績が上回っている。この私立学校の「優位」はそれ自体、PISA調査の読解力の得点で示されており、OECD加盟国において、私立学校の生徒は、公立学校の生徒全体よりも30点(正規の学校教育で4分の3年分に匹敵する値)得点が高い。

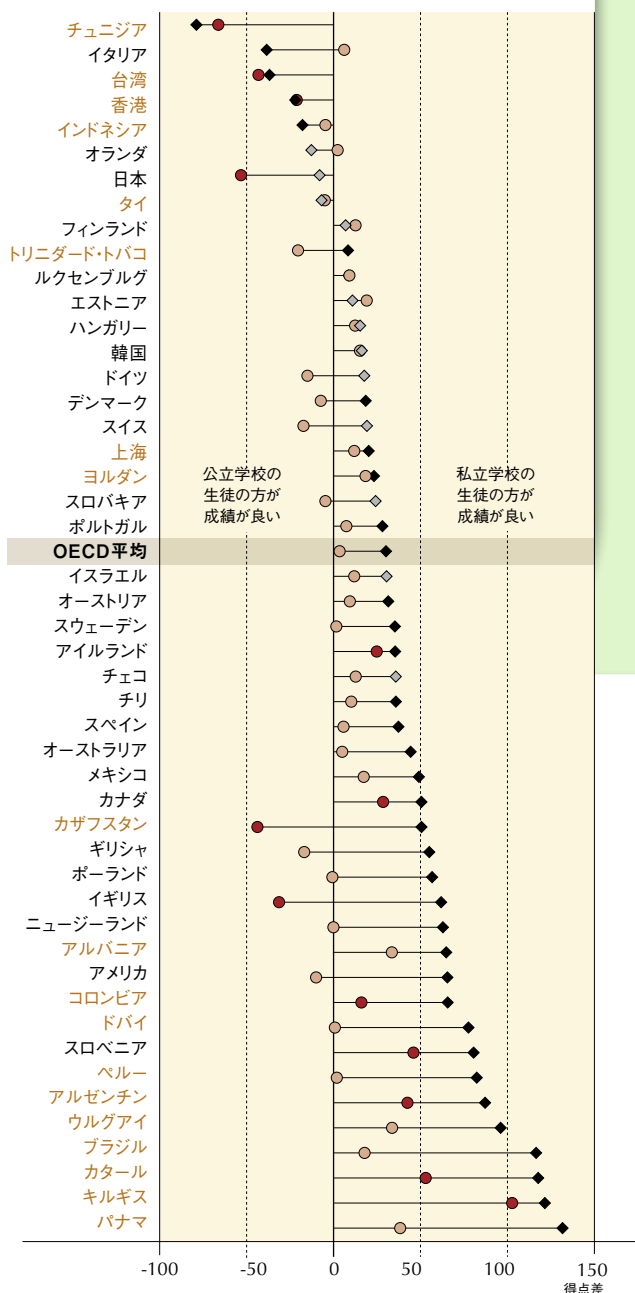


# PISA

IN FOCUS

## 私立と公立学校の生徒における 読解力得点の差

- ◆ 生徒の家庭環境、学校の自律性、学校の生徒獲得競争を考慮する前(全体としての差)
- 生徒の家庭環境、学校の自律性、学校の生徒獲得競争を考慮した後(正味の差)



注: 十分なデータのある国・地域のみを対象としている。統計的に有意な差は濃い色で示す。国・地域は、私立と公立学校の生徒について、家庭環境等を考慮する前の得点差(私立-公立)の大きい順に上から並べている。  
出典: PISA 2009 Results: What Makes a School Successful? Resources, Policies and Practices (Volume IV), Tables IV.3.9 and IV.2.4c.

この私立学校の優位の約10分の1は、競争と、私立学校が持っているカリキュラムの決定や資源の配置における高い自律性の結果である。しかし、30点の得点差の4分の3以上は、私立学校が社会的に恵まれた生徒を引き付けることができたからである。恵まれた生徒を引き付ける学校は、資源だけでなくより良い成績の生徒も引き付けることができる。実際、ほとんどの学校制度において、私立学校は、同じ制度の中の公立学校に比べて、より恵まれた生徒集団、より多くの物的資源を持ち、教師不足はより少なく、より良い学習環境を持っている。

…予想よりは小さい。

言い換えると、これらの学校に通う生徒の社会的背景、それに関連して学校が獲得する物的優位、指導上の優位を考慮した後では、公立学校と私立学校の生徒における得点差は少ししか残らず、それが私立学校におけるカリキュラムや資源の高い自律性に関連した部分と考えられる。実際、PISA調査では、公立学校が私立学校と同じだけの自律性を与えられ、同程度の生徒を引き付けている時、私立学校の持つ優位は、これが見られた16か国中13か国でなくなっている。

**公立学校**は、公的な教育当局や教育機関によって運営されている。

**私立学校**は、教会、労働組合、民間企業のような非政府組織によって運営されている。私立学校には、行政に依存しているものと、行政から独立しているものがある。行政に依存した私立学校は、独立して運営されているが、主要な財源の50%以上を行政機関から受け取っている。行政から独立した私立学校は、同じように運営されているが、行政機関から受け取っているのは主要な財源の50%未満である。

PISA調査では私立学校を、財源に関係なく、それ自体で運営されているものと定義している。この定義によれば、私立学校は親が入学金を支払う必要があるものとならないものが存在する。



## OECD加盟国における私立学校と公立学校の学校特性の違い

	PISA調査における社会的、 文化的、経済的地位に 関する平均指標 (プラスは私立学校の方が社会 経済的地位が高いことを示す)	学級の雰囲気に関する 平均指標 (プラスは私立学校の方が学級 の雰囲気が良いことを示す)	教育のための物的資源に 関する平均指標 (プラスは私立学校の方が 資源が多いことを示す)	教師不足に関する平均指標 (プラスは私立学校の方が 教師不足が多いことを示す)
オーストラリア	+	+	+	-
オーストリア	+			-
カナダ	+	+	+	
チリ	+	+	+	
チェコ	+			
デンマーク	+			-
エストニア				
フィンランド				
ドイツ				
ギリシャ	+	+		-
ハンガリー	+			
アイルランド	+			
イスラエル		+		-
イタリア	+	-	+	-
日本	+	-	+	
韓国		+		+
ルクセンブルグ			+	-
メキシコ	+		+	-
オランダ				
ニュージーランド	+	+	+	-
ポーランド	+			-
ポルトガル	+	+	+	
スロバキア		+		
スロベニア	+	+	+	+
スペイン	+	+		
スウェーデン	+	+		
スイス	+			-
イギリス	+	+		-
アメリカ	+	+		

## 非OECD加盟国・地域における私立学校と公立学校の学校特性の違い

	PISA調査における社会的、 文化的、経済的地位に 関する平均指標 (プラスは私立学校の方が社会 経済的地位が高いことを示す)	学級の雰囲気に関する 平均指標 (プラスは私立学校の方が学級 の雰囲気が良いことを示す)	教育のための物的資源に 関する平均指標 (プラスは私立学校の方が 資源が多いことを示す)	教師不足に関する平均指標 (プラスは私立学校の方が 教師不足が多いことを示す)
アルバニア	+		+	-
アルゼンチン	+		+	-
ブラジル	+	+	+	-
コロンビア	+		+	-
ドバイ	+	+	+	-
香港				
インドネシア				+
ヨルダン				
カザフスタン	+		+	-
キルギス	+		+	+
リヒテンシュタイン			-	+
マカオ	+		+	-
パナマ	+		+	-
ペルー	+		+	-
カタール	+	+	+	-
上海				
台湾		-		
タイ	+		+	-
トリニダード・トバゴ	+	-	+	-
チュニジア	+			
ウルグアイ	+	+	+	-

注: 十分なデータのある国・地域のみを対象としている。プラス(マイナス)記号は私立学校の公立学校に対する差が統計的に有意であり、それが正(負)の値であることを示している。記号がないものは、公立と私立学校の差が統計的に有意でないことを示している。  
出典: OECD, PISA 2009 Database.

多くの場合、学校を作るのは生徒である。

選択肢が与えられたならば、親は子どものために成績が最も良い学校と考えられるところを選択する。学校の成績は、一般的に提供される教育の質、個々の生徒の家庭状況、その学校の生徒全体の構成に左右される。OECD加盟国を通して、また特に非OECD加盟国・地域の中では、公立か私立かに関係なく、恵まれた生徒に提供される学校は、多くの教育リソースを入手でき、教師不足に悩まされることも比較的少ない傾向にある。その上、恵まれた生徒は、教育に対してより積極的な態度をとる傾向があり、このような生徒からなる学級の雰囲気は、一般的に、より学習の助けになるものとなっている。



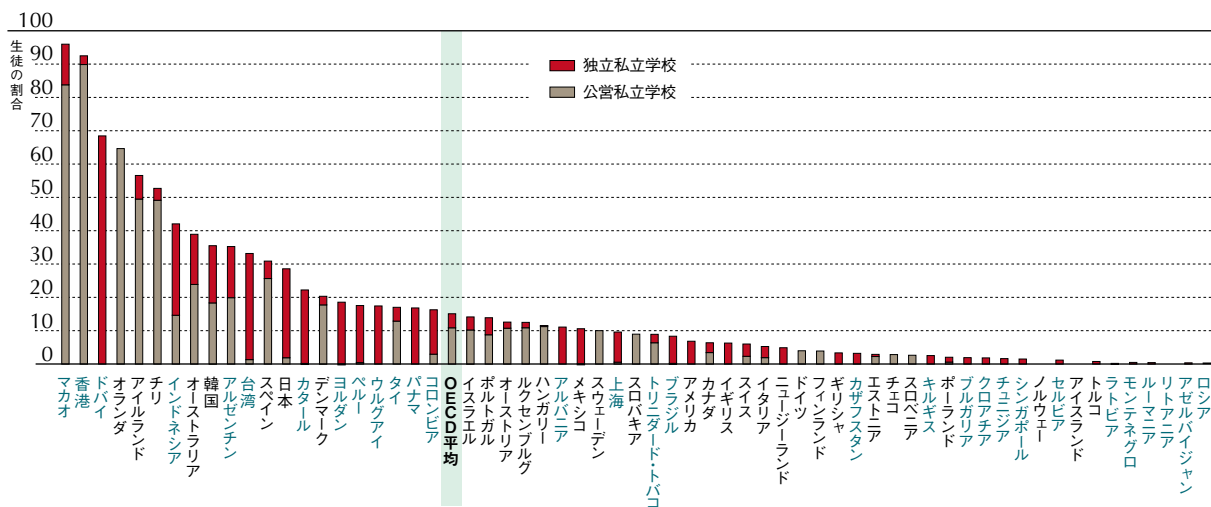
# PISA

IN FOCUS

そして、親が子どものために公立学校以上に私立学校を選ぶとき、親は子どもが社会経済的地位の同じか、それ以上の同級生がいるクラスに通う可能性、これらのクラスに向けられる資源、教師や物的な形でのリソースがより質の高いものになる可能性、クラスに秩序があり、さらに活気がある可能性が高くなるように選択を行っているのである。

しかしながら、PISA調査では、より多様な生徒集団からなる「平均的」な公立学校では一般的でないとしても、生徒集団が「同程度」の公立学校では同じような優位性を持っていることが示されている。

私立学校に通う生徒の割合



国・地域は、私立学校に通う生徒の割合の多い順に左から並べている。  
出典: PISA 2009 Results: What Makes a School Successful? Resources, Policies and Practices (Volume IV), Table IV.3.9.

公立、私立学校はともに生徒獲得のために競争し、カリキュラムと資源に関して自律性を持つことができるがゆえに、また、恵まれた生徒の数(そして公立、私立学校における恵まれた生徒の数が教育機会の質へ与える影響)が教育システムの中では一定のものであるがゆえに、PISA調査では、学校制度における私立学校の割合と制度レベルでの成績との間に何の関係性も見つかっていない。

**結論:私立学校(そして社会経済的に恵まれた家庭の生徒集団を持つ公立学校)は、そこに通う個々の生徒に利益をもたらすが、私立学校が学校システム全体の成績レベルをあげるのに役立っているといえる証拠は存在しない。**

本稿に関するお問い合わせ先  
担当: Guillermo Montt ([Guillermo.Montt@oecd.org](mailto:Guillermo.Montt@oecd.org))  
出典: PISA 2009 Results: What Makes a School Successful? Resources, Policies and Practices (Volume IV)

参考サイト:  
[www.pisa.oecd.org](http://www.pisa.oecd.org)

次回テーマ:  
「今の生徒は楽しみで本を読んでいるのか?」

本稿の翻訳は、日本のPISAナショナルセンターが担当しました。